

2025 年 10 月 24 日

～自動車部品の意匠性を高め、CO2 削減にも貢献する生産技術～ 国内初、大型製品に適用可能な「インモールドコート技術」を開発

豊田合成株式会社（本社：愛知県清須市、社長 兼 CEO：齋藤 克巳、以下「豊田合成」）と関西ペイント株式会社（本社：大阪府大阪市北区、代表取締役社長：毛利 訓士、以下「関西ペイント」）は、大型の自動車用プラスチック部品の成形と塗装を金型内で行う「インモールドコート技術」を共同開発しました。インモールドコートは一般的に小型製品向けには活用されてきましたが、今回の共同開発により、量産が難しい大型外装部品への適用を国内で初めて実現しました（※1）。

開発のポイント

豊田合成独自の「**大型製品向け金型技術**（※2）」と、両社協業による「**塗料の材料設計技術**」を融合させることで、国内初となる大型外装部品への量産適用を可能にしました。

この新技術により、塗装面の高い平滑性が得られ、ガラス面と一体感のあるシームレスな外観（つなぎ目が目立ちにくい）を実現。これにより、高級感のあるデザイン表現や新たな意匠の幅が広がります。

※1 2025 年 9 月末時点、豊田合成・関西ペイント調べ。なお、豊田合成でのインモールドコートの活用は今回が初となる。

※2 大型で複雑な形状のフロントグリルなどの生産を支える金型の設計・設備制御技術。

その他のメリット

- ウレタン塗料の採用により耐久性を向上（洗車時などの擦り傷が目立たなくなる）
- 塗装ブース、乾燥炉が不要となることで、生産時の CO₂を約 6 割削減

今後の展望

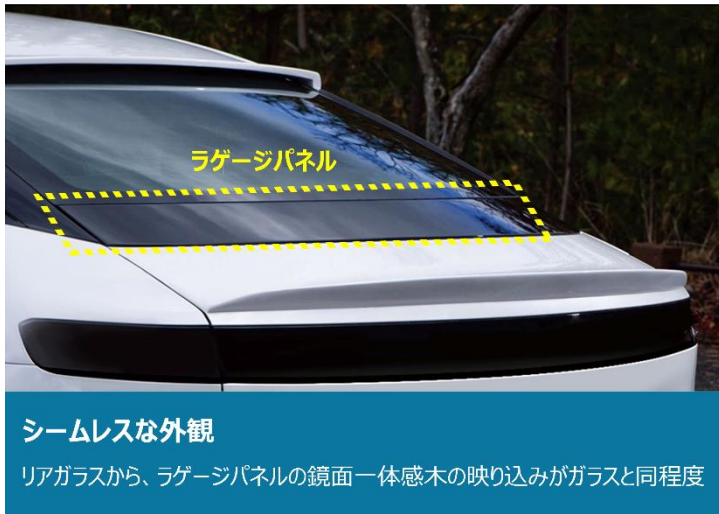
- 2026 年春頃、本技術を用いた大型外装部品を市場投入予定
- 豊田合成の国内外の生産拠点に展開予定（競争力のある新たな加飾技術の柱）

今後も両社の連携を通じて本技術の活用範囲を拡大し、魅力的な外観を備えた車づくりに寄与するとともに、さらなる CO₂排出量の削減に取り組んでまいります。

<インモールドコートを用いた大型製品（試作品）>

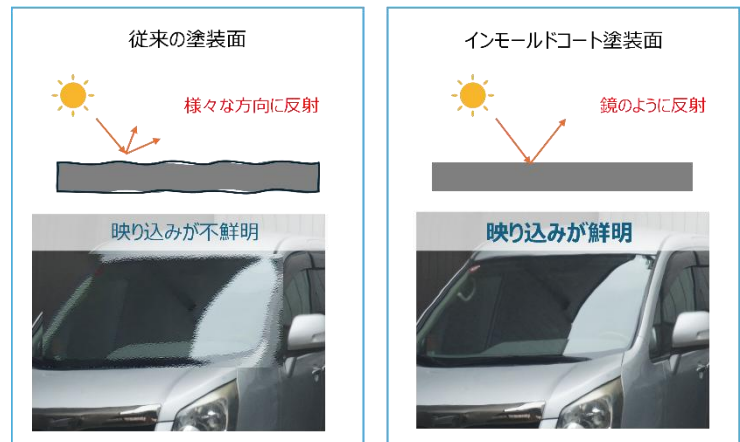


ラゲージパネル
（サイズ：縦270 mm× 横1,000mm）



塗装面の平滑性（従来品との比較）

インモールドコートにより平滑性が高まり、製品の表面にモノが鮮明に映り込む



本ニュースリリースに関するお問い合わせ先
 関西ペイント株式会社 経営企画本部 IR・広報部（石塚・今安）
 E-mail : koho@als.kansai.co.jp